

令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・タブレットやノートを状況に応じて使い、自分の考えをもつこと、他者と考えの交流をすることを継続して行うことで、自分の考えを深めようとする姿勢が定着してきた。

(2) 課題

- ・文法・語句に関することが目標値を下回っているため、文法の指導を継続的に行う。
- ・文を書くことにおいて学年が上がるごとに正答率が低くなる傾向があるため、問題を正しく読み取り、自分の考えを明確に書くことを作文指導の中で継続的に行う。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	目標値に対して、基礎は上回っている。活用はやや下回っている。特に「文法・語句に関する事項」「文章を書く」において目標値を大きく下回っている。		
第2学年	目標値に対して、基礎、活用ともに上回っている。ただし「説明的な文章の内容を読み取る」において目標値をやや下回っている。	目標値に対して、基礎、活用ともに上回っている。「言葉の特徴や使い方に関する事項」において目標値をやや下回っている。(第1学年時)	
第3学年	目標値に対して、基礎は若干下回っている。活用は大幅に下回っている。「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」において目標値を上回っているが、その他の領域は目標値を下回っている。	目標値に対して、基礎は上回っている。活用は下回っている。「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」において目標値を下回っている。(第2学年時)	目標値に対して、基礎、活用ともに下回っている。「我が国の言語文化に関する事項」「書くこと」において、目標値をやや上回っている。(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値をやや下回っている。特に、「漢字を書く」「文法・語句に関する事項」において目標値を下回っている。	目標値を上回っている。ただし「文章を書く」において、目標を大きく下回っている。	

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値をやや下回っている。特に「漢字を読む・書く」において目標値を下回っている。	目標値を上回っている。ただし、「説明的な文章の内容を読み取る」において目標値を下回っている。	

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を若干下回っている。「漢字を読む・書く」においても目標値を上回っている。「文法・語句に関する事項」において目標値を下回っている。	目標値を下回っている。特に「説明的な文章の内容を読み取る」「文学的な文章の内容を読み取る」「文章を書く」において目標値を大きく下回っている。	

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ワークを活用して、漢字や語句の学習に繰り返し取り組ませる。作文など「書く」活動の中で定着を図る。	「文章を書く」において、伝えたいことを明確にし、自分の考えが伝わるように文章を書く場面を多く設定する。	学んだことを共有し、自分の考えを広げることに課題がある。ICT機器を活用し、書くことへの苦手意識を減らしていく。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ワークを活用して「漢字を読む・書く」学習を繰り返し取り組ませながら定着を図る。また、小テストには必ず小学校での既習漢字の書き取りを取り入れる。	「説明的な文章の内容を読み取る」において、文章内容について叙述を基に捉えられるよう、要約など、内容を整理する場面を多く設定する。	理解したことや考えたことを深めることに課題がある。振り返りシートを活用し、単元や学びのつながりを意識させる。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文法や漢字の書き取りの練習を授業の中で多く取り入れる。また定期的に小テストを実施し、振り返りを行うことで定着を図る。	自分の考えや根拠が明確になるように、話の構成を考えて文章を書く場面を授業の中で多く設定する。また記述の量を少しずつ増やすなどし、作文につながるよう工夫する。	話の構成を考えることに苦手意識がある。文章を読む際に構成を捉えさせる指導を、作文を書く際に構成を考えて書く指導を行い、継続して練習する中で、書く力の定着を図る。